

## 第55回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

もしもはこないでほしいけど

福島県 須賀川市立第三中学校 二学年

鈴木 眞優

「ご飯食べちゃってー。」

台所で母に言われ、遅めの朝食をとっていると、珍しく朝から電話がなった。せわしく出かける準備をしている母に、

「どうしたの？」

と聞くと、母が、

「お父さん、事故にあったみたいだから、ちよつと行ってくる。」

と答えた。一瞬、スローモーションになったかのように、ぼく然とした不安がおそってきた。驚きと不安で、

「大丈夫なの？」

と問いかける私に、母は落ちついて、

「今から様子を見てくるけど、電話ではケガはしてないって言ってたから。」

そう言い残して、出かけていった。

両親が帰ってくるなり、

「大丈夫？」

と問いかける私に、

「大丈夫。念のため、病院で検査してもらって、先生のお墨付きもいただいたよ。」

と笑顔で話した。

「よかった。何かあったらどうしようかと思った。」

と、私は疲れたように言った。心配していたせいか、全身から力が抜けるような感覚だったのだ。すると父は、

「お父さんに、万が一のことがあっても大丈夫なように、ちゃんといろいろ考えてるから。」

と話し始めた。

「お父さんが死んじゃったら、どうしようもないでしょ。」

と、今度は怒り気味に言うのと、

「確かに死んじゃったら何もできないけど、その後も家族は生活していかなくちゃいけない。そのために、万が一に備えて生命保険や学資準備のための保険に入ってるんだよ。お世話になりたくないけれ

## 第55回中学生作文コンクール

ど、そうだった時に、準備しておけばよかったなんて思っても遅いからね。死んでも死にきれないよ。」

と冗談交じりに父が言った。普段、これからのお金の話をする機会はないからなのか、いい機会だからといろいろと父と話した。

まず、自分が事故や病気でいなくなっても、心配ないように生命保険に加入していること。何せ、私は今時珍しい四人姉弟で、母の収入だけでは心配だからと、四人目の子供が生まれる前に保険の見直しもしたそうだ。

次に、子供には自分の思う道に進んでほしいという両親の思いがあるため、四人それぞれに学資準備のための保険に加入していること。お金の心配はせず、しっかり勉強さえしてくれたらいいから、と笑う両親の後ろに残りの夏休みの宿題がちらついていた。

万が一に備えた生命保険。使う日が来ない方がいいが、もしもの場合は、とても心強いと思う。両親の『自分の思う道に進んでほしい』という願いに応えるよう、まずは夏休みの宿題を片づけるとしよう。